

2022年4月1日

## 2050年に向けた世界のCO<sub>2</sub>排出に対する削減インパクトの目標を発表

パナソニックグループは、2050年に向けて、グループのバリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量 実質ゼロと、現時点の全世界のCO<sub>2</sub>総排出量約330億トン<sup>※1</sup>の「約1%」にあたる3億トン<sup>※2</sup>以上の削減インパクトを目指すことを発表しました。

※1:2019年 エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量336億トン(出典:IEA)

※2:CO<sub>2</sub>排出係数は2020年基準

2017年に策定した「パナソニック環境ビジョン2050」では、当社が使うエネルギーの削減と、それを超えるクリーンなエネルギーの創出・活用を推進してきました。しかしこの度、こうした自社の使う・創るエネルギーの比較から、グループの長期環境ビジョンとして社会全体のCO<sub>2</sub>削減という課題に対する当社の貢献に視点を改め、「Panasonic GREEN IMPACT」に移行します。

それに伴い、指標についても、グループが向き合うべき地球環境課題とその貢献価値をより明確にするため、社会へのCO<sub>2</sub>削減インパクトに置き換えることとしました。パナソニックグループは、自社のCO<sub>2</sub>排出を減らし、くらしやビジネスにおけるCO<sub>2</sub>削減に貢献する様々な活動のインパクトを広げることで、社会と共にカーボンニュートラルを目指します。

### 2050年に向けて 現時点の全世界CO<sub>2</sub>総排出量の「約1%」にあたる 3億トン以上の削減インパクトを目指す<sup>※</sup>



※ 2019年 エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量336億トン(出典:IEA)、3億トンは2020年の排出係数で算出

## 「Panasonic GREEN IMPACT」で目指す 4 つのインパクト

新たな環境長期ビジョンでは、CO<sub>2</sub> 削減をめざすべき対象範囲や削減貢献方法・時間軸の違いにより 4 つのインパクトを区分し、目標を定めています。

### ① グループのバリューチェーンにおける排出削減インパクト

社会の脱炭素効果も含め、製品使用時に 8 割のエネルギー使用を占める照明・空調・換気の 3 領域を中心に、グループのバリューチェーン全体(スコープ 1・2・3)の排出量 1.1 億トンの削減インパクト

※2021 年 5 月 27 日公表の「2030 年までに全事業会社の CO<sub>2</sub> 排出を実質ゼロ化」は、この中に含まれます

### ② 既存事業による社会への排出削減貢献インパクト

既存事業である車載電池、サプライチェーンソフトウェア、空質空調などの領域でお客様のエネルギー削減を通じた排出量 1 億トン削減貢献インパクト

### ③ 新技術・新事業による社会への排出削減貢献インパクト

新事業・新技術である水素エネルギーデバイス等による社会のクリーンエネルギー変革から排出量 1 億トン削減貢献インパクト

### ④ 社会のエネルギー変革に対する波及インパクト

①～③の事業活動やコミュニケーション活動を通じて社会のクリーンエネルギー化に貢献

これらを合わせて、社会と共に CO<sub>2</sub> 排出量 3 億トン以上の削減インパクトを目指します。

詳細は、[Panasonic GREEN IMPACT サイト](#)をご覧ください

以上